

平成9年度 和歌山県文化奨励賞

たむらこ 田村 さと子

住 所：神奈川県川崎市

出 身 地：和歌山県新宮市

生 年：昭和22年

氏は、本県のみならず我が国を代表する詩人として、優れた文化の創造と普及活動を続け、本県文化振興に対する功績は多大である。

◎業績及び経歴

氏は、幼少の頃より文学に非凡な才能を示し、小学校から高等学校まで机を並べた、芥川賞作家である故中上健次氏とともに文学の道を歩んだ。

お茶の水女子大学で幼児教育を学んだ後、幼稚園教諭をしていたが、溢れる文才を活かすべく、メキシコへ留学し同国立自治大学哲文学科でラテンアメリカ文学を学んだ後、スペイン国立マドリード大学哲文学科にて詩論を専攻し、その感性を磨いた。

「神秘の国・言霊の国ともいべき紀南の風土が私を詩人にした」と自らが記した、故郷熊野地方と、ラテンアメリカの風土の類似性を発見することにより、新しい発想をもって、特集「イベリアの秋」を発表し、昭和54年に第3回現代詩女流賞を受賞する。

その後も、ノーベル賞受賞の女流詩人であるチリのカブリエラ・ミストラルを始めとするラテンアメリカ文学を中心とした研究により、平成3年にはお茶の水女子大学にて文学研究者としては初の学術博士号を取得し、翌年からは、帝京大学文学部国際文化学科で助教授として後進の指導にその才能を遺憾なく発揮している。

この様な功績により、平成7年にはチリ国において「センテナリオ・デ・アスール・ルベン・ダリーオ賞」を受賞する。

氏は、こうしたラテンアメリカ文学の研究の中で研ぎ澄まされた感性をもって、精力的に創作活動に取り組み、数々の優れた作品を創作し、多くの読者を魅了した。

■現在

帝京大学文学部国際文化学科助教授

チリ・スペイン語アカデミー会員

■主な表彰歴等

昭和54年 第3回現代詩女流賞

平成3年 お茶の水女子大学学術博士号
(Doctor of Philosophy)

平成7年 センテナリオ・デ・アスール・ルベン・ダリーオ賞(チリ)

平成8年 世界芸術文化財団名誉文学博士
(アメリカ)

平成8年 第21回地球賞